

11月10日（水）大津市立皇子山中学校を訪問しました！

対談テーマ

「読み解く力」の育成に重点を置いた教育の展開について

学習過程を「聴く」「考える」「表す」に分解し、「皇中スタンダード」として授業改善の共通実践を図る大津市立皇子山中学校の取組を見聞し、「読み解く力」の育成に重点を置く教育の展開について意見交換しました。

訪問した委員

岡崎 正彦 委員

野村 早苗 委員

大津市立皇子山中学校について

学校教育目標「『皇子山中学校・校区』を愛し、校区の次代を担う生徒」のもと、コミュニティ・スクールを生かした地域連携、校区の保育園・幼稚園・4小学校との一貫した教育などの取組を進めています。また、「やっぱり皇中が好き」と言える生徒の育成を目指し、生徒一人ひとりの自尊感情・自己有用感を高める人権教育・道徳教育や、自他を認め合う学級集団づくり、伝え合う力の育成に向けた皇中スタンダード「聴く・考える・表す」の構築等に取り組んでいます。

「読み解く力」とは

「主に文章や図、グラフから読み解き理解する力」と「主に他者とのやりとりから読み解き理解する力」の2つの側面を持ち、「必要な情報を確かに取り出す」、「情報を比較し、関連付けて整理する」、「自分なりに解決し、知識を再構築する」という3つのプロセスを総括するものです。この「読み解く力」を育むことにより、子どもたちが諸課題に対して柔軟に対応し、主体的に解決する力につながります。

意見交換より

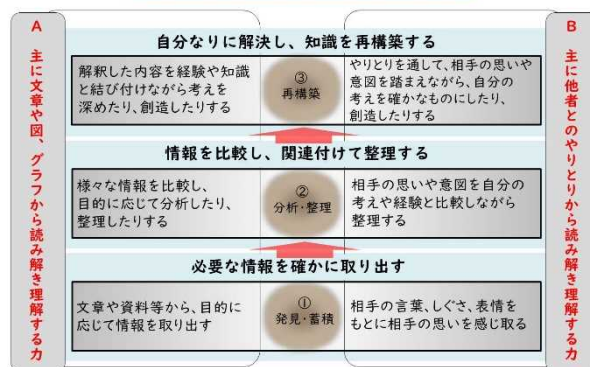
委員：「読み解く力」につながる皇中スタンダード「聴く・考える・表す」の構築にいつから取り組んでいるのか。

学校：「読み解く力」の3つのプロセスに重なる部分があり、数年前から取り組んでいる。また、学級づくりを授業づくりの根底に据え、「読み解く力」の育成を目指している。

委員：「読み解く力」の視点を踏まえた授業づくりについて工夫していることは。

学校：「読み解く力」と情報活用能力の育成を関連付けながら育成していくことを意識して授業をしている。他者との対話や資料の理解にあたり、1人1台端末環境を有効に活用できる。

「読み解く力」イメージ図



滋賀県教育委員会では、「主体的・対話的で深い学び」の実現につながる「読み解く力」の視点を踏まえた授業づくりを推進しています。今年度は、ICT環境の効果的な活用を通して、子どもたちが学びを実感できる授業づくりを進め、「読み解く力」の育成を図っています。